

仏様のおはなし新シリーズ第67集 その1 「今を大切に生きる 一日を大切に生きる 一生を大切に生きる」

「今を大切に生きる 一日を大切に生きる 一生を大切に生きる」
これは以前お寺の山門の掲示板に書かせていただいた、ある法語カレンダーからの言葉です。

昨年亡くなつたアメリカの俳優、ロビン・ウイリアムズの映画に『今を生きる』という作品があります。厳しい規則に縛られた学校を舞台に、破天荒な教師が生徒を導き、やがて生徒たちは自分の足で人生を歩み出す、といった内容でした。

『今を生きる』という言葉はよく耳にします。しかし、これは当り前のように実はなかなか難しいことです。
規則に縛られた生徒たちのように私たちは何かに縛られ、今をしつかり生きているとは言えないのではないかとうか。

私を縛るものとしてやつかいなのが実は過去と未来です。読んで字の如く、過去は過ぎ去つたもの、未来は未だ来ないもの。いずれも今現在はどこにも無いものです。
もう過ぎ去つて今何處にもいない過去の自分を悔み、あるいは昔の栄光を懐かしみ、それに縛られ、未だ来ない未来の自分に期待し、老いや死などの先行きを恐れ、それに囚われていませんか？それらで頭がいっぱいになつて肝心の今の私が置き去りにされていないでしょうか？

仏教では過去・現在・未来を『三世(さんぜ)』といいます。その中でも『現在』が最も重要と説きます。私にとって現在が全てであり、その現在を問題としています。

ある時、お釈迦様とお弟子たちのところに神がやつて来て、「あなたたちは家も無く着の身着のまま、一日に一食しか食べず、なのに何故あなたたちの顔はそのように穏やかで美しく輝いているのか。」と尋ねました。釈尊は「私達は過去に悩まず、未来を期待せず、現在に生きている。したがつて穏やかなのです」とお答えになりました。
つまり、瞬間瞬間を充分満足して生きているから命が輝いているということなのです。

「あのころは良かった」とか「あの時ああしてればこうはならなかつた」という思いに囚われていませんか？「今はまだ本気を出してないが、その時になつたら…」とか「いつまで生きられるのだろうか？」などと思っていませんか？

阿弥陀さまは、迷う「私」に向かつて「今」「こゝで」目覚める教えを示して下さっています。

それが『南無阿弥陀仏』のお念仏です。「そのままで必ず救う、念佛申せ」とのお呼び声に、私が念佛申そうと思うその時に、既にお救いの中にあるのです。

阿弥陀さまに常に願われ、その手に抱かれているからこそ、たとえどのような境涯にあろうと、 仏さまに出遇つた、今の私のかけがえの無い身命(いのち)が輝いていくのです。

「今」が輝いてこそ、「あの時のあの事のお蔭」と過去に対して押んで行けるのではないでしようか。そして大切に生きる「今」の積み重ねが、一日・一年・一生と、未来へとつながっていくことでしょう。

